

今月のことば

私の都合で
鬼といい
福という
本当の鬼は
ここにいた

(小池秀章)

「鬼は外、福は内」

世間一般的に節分には、そんな声と共に豆がまかれます。「鬼を追い出し、福を求める」、それは、人間の持つ自然な思いでしょう。しかし、「まことの保育」を行う私たちにとって、何を鬼と言い、何を福と言っているのか今一度考えてみましょう。鬼といえは、頭に角のはえた怖い顔を思い浮かべる人が多いと思いますが、日常生活では、自分のことを批判し攻撃してくる都合の悪い人を、鬼と言っているのではないのでしょうか。また、福とは、自分にとって都合のいいものを言っているのではないのでしょうか。

このように考えてみると、自分にとって都合の悪いもの（鬼）を排除し、自分にとって都合のいいもの（福）を求めているのが、この私の姿だということがわかります。そんな自己中心の心から離れられず、自分勝手に生きている私こそ、まさに『鬼』なのです。

私には忘れられない肖像画があります。妙好人（みょうこうじんにん…ありがたい念仏者のこと）のひとりである浅原才市さん（1850～1932）の肖像画です。正座をして合掌をしている才市さんの頭には、鬼の角が描かれているのです。

私の心の中にいる『鬼』の存在を、忘れなさいたいと思います。

合掌

龍谷大学非常勤講師

小池秀章 こいけひであき